

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1491000160
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所
事業所名	グループホーム野の花
訪問調査日	平成 20 年 9 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 24 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1491000160		
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	神奈川県横浜市戸塚区上矢部町2115-6 (電話) 045-815-2815		
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】(平成20年6月20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	42 人	常勤	6 人、非常勤 36 人、常勤換算 14 人

## (2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	43,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(245,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	360 円	おやつ	107 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(平成20年6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 74 歳	最低	64 歳	最高	88 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘陽かしわ台病院、岡津クリニック、湘南デンタルクリニック
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

戸塚の高台に位置し、近くに見晴らしの良い公園があり、利用者には清掃活動などを通じて、なじみの公園になっている。  
「一人の人間として生活する」場を共に考えようという理念の実践として、毎朝行う朝礼には職員だけでなく、利用者全員も参加して、自分の生活について皆で話し合っている。利用者がそれぞれ役割を持ち、利用者同士支えあって暮らしている。  
開設から約1年が経過し、法人が経営する複数の事業所と連携をして、職員教育に努め、職員が自ら考えるケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価受審である。サービスを見直す機会ととらえ、カンファレンスや朝礼などの折に職員間で話し合っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価にあたっては、管理者が作成した自己評価票を職員に回覧し、職員の意見を聞いてまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>第1回目を平成19年12月に開催し、3回目を9月に予定している。委員は、利用者本人や家族、民生委員、地域包括支援センター職員等で、事業所側は職員が持ち回りで出席し、全職員が運営を考える機会としている。事業所に対する理解を深めてもらうために、活動状況の報告だけでなくヒヤリハットの報告など様々な情報を公開している。また、運営推進会議で地域の方に外部評価を受審することを周知し、結果を知らせることを予定している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議で意見を聞いているほか、家族会やイベントの時など職員は機会あるごとに聞いている。また、いつでも誰でも意見を出せるように、事業所の入口に「意見箱」を設置している。苦情や不満等ははまだ寄せられていないが、利用者本人が要望を直接言えるよう、毎朝行う朝礼に利用者全員と職員が参加し、意見交換をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、交流を図っている。地元の住人としてゴミ収集場所を持ち回りで提供したり、近隣の公園の清掃を利用者と職員がともに行っている。今年は町内の盆踊りにも参加した。近隣中学校の体験学習や幼稚園との交流、ボランティアのバレー公演や落語などのイベント時は近隣の方を招いて、開かれた事業所を目指している。また、認知症キャラバンメイトの講座や認知症のミニ講座を事業所内で開くなど、地域の方に認知症を理解してもらうよう努めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として、「ひとりの人間として受け入れ、その人らしい自然な姿で過ごせる家庭的な環境での共同生活を送る」ための援助を行うとしている。地域との交流に努め、開かれた事業所を目指している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	重要事項説明書に明記するほか、新人職員研修で取り上げている。玄関、事務所の目につく所に掲示し、職員研修の際にも繰り返し喚起して、職員間で共有している。日々の取り組みの中で、「原点に帰ろう」と話し合い、毎朝行う朝礼には職員だけでなく利用者全員も参加して、利用者の希望を聞き、利用者の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。地元の住人としてゴミ収集場所を持ち回りで提供したり、近隣の公園の清掃を利用者と職員がともに行っている。今年には町内の盆踊りにも参加した。地元中学校の体験学習の受け入れを行い、ボランティアのパレエ公演や落語などのイベント時は近隣の方を招き、開かれた事業所を目指している。また、認知症ミニ講座などを行い、地域の方に認知症を理解してもらうよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価はサービスの振り返りの機会ととらえ、職員に評価のねらいについて周知し、朝礼やカンファレンスなどの折に話し合い、各職員が自らのケアを再度見直している。自己評価票の作成には、管理者が作成した自己評価票の原案を回覧して、職員の意見を聞いてまとめた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員は利用者本人や家族、民生委員、地域包括支援センター職員等で、事業所側は職員が持ち回りで出席し、全職員で運営を考える機会としている。救急車の利用を報告して欲しいと意見が出され、活動状況の報告だけでなくヒヤリハットの報告なども公開している。また、運営推進会議で地域の方にも外部評価受審を周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から依頼を受けて、生活保護受給の利用者を受け入れおり、現在は利用者定員の8割を超えている。グループホーム連絡会などで、市や区と連絡を密にしている。市の職員を対象に、管理者が認知症キャラバンメイトの講習を行った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月ごとにホーム便りを発行している。家族の面会時には職員が生活の様子を伝えるようにしており、訪問調査日にも面会に来た家族と職員が話をしていた。金銭の領収は面会時に確認してもらっている。緊急の場合は電話で連絡を取っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞いているほか、家族会やイベントの時など職員は機会あるごとに聞くようにしている。また、いつでも誰でも意見を出せるように、事業所の入口に「意見箱」を設置している。苦情や不満等はまだ寄せられていないが、利用者本人が要望を直接言えるよう、毎朝の朝礼には利用者全員と職員が参加し、意見交換をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	研修等で職員のモチベーションを高め、また、職員間で何でも意見を出してストレスをためないように配慮するなど、職員の退職防止に努めている。利用者を交えて行う朝礼では、利用者とも意見交換をし、お互いのケアを確認することも兼ねている。職員の交代はまだないが、今後ある場合には、できるだけ長い引継ぎ期間を設定することを考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用の職員には、本社で新人研修を実施後、マンツーマンで教育を行っている。外部研修には、情報を入手して、交代で参加している。研修参加後はレポートを提出し、朝礼で成果を発表して情報を共有している。また、同一法人の8事業所と月1回管理者会議で情報交換するとともに、職員の交換研修も行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、地域の事業所と連携をはかっている。今年度は幹事を引き受け、管理者がブロック長となり、講習などを担当している。職員は講習に参加して、同業者との交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービス利用の開始となるように、必ず面接をして、管理者、職員と顔見知りになるようにしている。体験入所のシステムがあり、初日を歓迎会として家族も参加して食事を開き、事業所の雰囲気等を知ってもらい、入居となった方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者も毎朝の朝礼に全員参加して、職員は利用者の希望や要望等を確認している。また、職員の気持ちも利用者に伝える機会になっており、利用者職員が対等の立場で話し合っている。利用者から励まされたり慰められたり、職員は利用者が手伝ってくれた際には感謝の言葉を表している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者も参加して朝礼を行っており、当日のスケジュールを双方で確認し、利用者に食事の希望や自分の意見を出してもらい、希望に沿ったケアを実践している。職員は利用者の出すサインを注意深くとらえ、訪問調査日にも、帽子をかぶった利用者に職員が気づき、数名で散歩に出かけていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	東京センター方式のアセスメント表を使用して、アセスメントを行っている。本人の希望は利用者とともに朝礼で確認し、家族や区の生活保護担当者と話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月ごとに行っている。変化が大きい時は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。東京センター方式のアセスメント表を使用して、評価も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営主体法人は医療法人と系列で、医療機関との連携に努めている。入院した利用者への支援では、グループホームでの生活を早く送れるように、医師と話合っている。また、法人で居宅介護支援事業を運営しており、ケアマネジャーからの依頼や、小規模多機能事業所から入居につながる場合もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用しているかかりつけ医に出来るだけ通えるように支援している。原則は家族対応であるが、緊急時や家族の都合により、職員が対応することもある。また、法人の看護師と連携して、利用者の健康管理に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しグループホームでの生活が困難となった際には、系列法人の医療機関などを紹介することを、入居前に利用者本人、家族に説明している。ターミナルケアへの取り組みについては、今後、職員間で話し合いたいと考えている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入職前に個人情報の扱いに関する誓約書を提出している。個人情報に関する記録等は鍵の掛かるロッカーに保管管理している。訪問調査時の職員の利用者への態度、言葉遣いはさりげない対応であった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日朝礼の際に利用者全員の希望を聞いている。天気や気分でやりたいことや食べたいものを聞き、希望に沿って支援している。外出が好きな利用者が多いので、天気の良い日は戸外で食事することもある。起床の遅い利用者には急がせることなく、本人のペースで朝食を摂ってもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の希望を聞き用意している。好評のおやつとなっているばた餅は、いつでも作れるように材料を常備している。訪問調査日は、2ユニットで同じ材料を用いているが、料理方法や味付けは異なっていた。ミキサー食の利用者にも味付けを同じにしていた。職員は利用者と一緒に食事をとり、盛り付け、配下膳をともに行っている。利用者が他の利用者の面倒を見たり、共に会話をして楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきが基本だが、希望があればできるだけ沿うようにしている。朝風呂の好きな人は午前中に、夕方が好きな人は午後に入浴している。シャワーは毎日でも入れるようにしており、訪問調査日も予定にはなかったが、シャワー浴をしていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが役割を持ち、男性も掃除や洗濯物を干したり、買い物の荷物持ちなど出来ることを手伝ってもらっている。花見や遊園地などへの外出は気晴らしになっており、イベントを多く取り入れボランティアなどの出入りも多くある。訪問調査日にも、利用者が他の利用者のお世話をする場面が何度かあり、お世話をしてくれる利用者に職員が丁寧にお礼を言っていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の日課に買い物や散歩を取り入れている。買い物の際は行きたい人を募って出かけ、車椅子を複数用意しており、歩行が困難な利用者も一緒に散歩している。職員は外出できる時に出ようと考えており、行事以外でも、天気の良い日は公園や広場で昼食を食べることもある。訪問調査日にも、昼食後帽子をかぶった利用者職員が気づき、他の利用者にも声をかけて数名で散歩に出かけていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階は日中は鍵をかけないケアに取り組み、2階は徘徊の傾向がある方がいるためにセンサーをつけて対応している。職員が常に気をつけており、利用者が出かけた場合は後をつけて行くことにしている。万が一のことを考えて、警察に協力依頼をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎日の朝礼で、利用者にも災害の際の避難について話している。年に2回避難訓練を行っている。9月16日に自動火災報知器の業者点検があるので、避難訓練を行う予定としており、運営推進会議でも避難訓練の実施を周知している。災害時の備蓄として、水や食品などを用意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量のチェックを行っており、年2回の血液検査の結果を見て、医師から水分の適量を指示されることもある。協力医療機関の管理栄養士に依頼し、栄養バランスの確認をしてもらっている。訪問調査日には、食事の際に水分が十分取れるよう、好みの飲み物や配膳の順番にも配慮していた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は全体を見渡せる構造になっており、職員の目が届き、広くゆったりとくつろげる空間になっている。テーブルやソファの配置次第でホールにもなり、地域の方とのふれあいの場ともなる。トイレや風呂場もバリアフリーとなっており、いたる所に手すりを設置している。ペランダは開放的で、緑や野菜も育てており、利用者の楽しみにもなっている。2階は天窓もあり明るい。飾りは季節感が出るよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は大きな窓の明るい部屋になっている。なじみのタンスやベッド、写真やテレビ、昔訪れた観光地の土産物などを持ち込んでいる。持ち込みの品の少ない利用者には、入居後に本人が希望した家具や小型冷蔵庫、ポットなどを買い揃え、住み心地の良い部屋づくりをしている。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム野の花
(ユニット名)	グループホームコスモス
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市戸塚区上矢部町2115-6
記入者名 (管理者)	大形 敬子
記入日	平成 20 年 7 月 11 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域に根ざすグループホームである様、スタッフ一同近隣の公園の清掃の参加、クリスマス会には、一人暮らしの高齢者、子供会の子供さんを招き会食会等を行っております。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>朝礼にて、入居者一人一人の関わり等、サービスの質の向上にて話合っております。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>定期的に家族会を開き、催し物、誕生日、カラオケ等日中スナックを借り、日々の活動に参加して頂く様アプローチしております。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物、その他の外出の機会に近隣の方々の理解とコミュニケーションを取っております。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会への参加、公園のゴミ拾い、囲碁の交流等地域の活動交流を図っております。又、中学生のボランティア活動体験学習の受け入れ、イベントの際お誘いして交流を計っております。</p>	<p>○ まだ、開所して間もない為もっと地域の催し物等多くに参加していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方々御家族には、介護保険の仕組み、認知症等について理解しやすい様講演等行っております。又横浜市グループホーム連絡会にて、認知症についての発表会等行っております。</p>	○	<p>・グループホーム連絡会 ・認知症審査委員 ・キャラバンメイト ・区認知症について等々で、今後地域に貢献したく思っております。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>大変深く理解しております。日々の業務や、サービスを見返す機会としてとらえ朝礼、カンファレンスの議題に取り上げて地道に改善の努力を重ねております。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営委員会を現在2回行っている内、ホーム内の出来事等交流参考意見が出てきております。この事を真摯に受け止め、更なるサービスの質の向上につなげていっております。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム連絡会委員会、認知症審査委員、キャラバンメイトの活動で、少しながらも講演等させていただいた中で伝える事で質の向上につなげていっております。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>日々高齢者の見守り、支え合えるシステムをスタッフ一同が、事業や制度の理解に努め、御家族にも啓蒙を勧めております。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の定義について徹底して学び、何が虐待につながるか色々な角度から分析し要因を探っています。又虐待防止の定義を事務所内に掲示し、全職員がこれを遵守する様に行っております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホーム内で出来る事、出来ない事をあらかじめ明確に説明し、入居者の意向や要望にも耳を傾け、十分に納得して頂いたうえ契約を結んでおります。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中朝礼、外出時あらゆる場面で利用者自ら意見、要望を自由に発せられる様心がけ、利用者、関係者と意見を交換し、ケアプランに反映しております。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3か月に1回家族会を開催し、ホーム新聞を発行し面会時にも日々の生活の様子をお知らせしております。お小遣いは、月初めに前月の収支報告を郵送しております。個人の体調変化、訴えに即対応、電話、FAXにて連絡している。職員の異動は、家族会、面会時に報告しております。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、イベント等の機会を通じ、要望、提案等自由に発言して頂き、家族同士が話し合える場を提供し、意見を伺い職員はそれらの意見を全員の周知のののもとに、サービスの改善に努めております。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼カンファレンスで、お互いの意見を交換しているのは言うまでもなく、問題や疑問が生じれば、日々の業務の合間にも、お互いが納得できるまで話せる体制を整えております。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>十分な人員を確保し、ローテーションを組んでおり、突然の休みに対して、代替りの者がバックアップに入れる様にしてあります。夜勤者の申し送りは、口頭にて聴き、ノートに記す様にしてあります。入居者のレベルダウンに伴い、状態に合わせ人員を増やしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、必要かつ最小限にとどめています。離職者が居る場合には、十分な時間的余裕をもって引き継ぎを行い、新職員に対しては、あらかじめ社内研修を実施して、違和感なくホームに溶け込める様に教育しております。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いを行っている。研修に参加した職員は、朝礼で研修内容を伝えている。 (例：事業主の研修の場所になっています)	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度より、横浜市グループホーム連絡会の役員、戸塚・泉区のブロック長の役もあり、H20年6月13日にはブロック内研修として、新人研修講演を行いました。同系列グループホームの交換研修を行う事により、他の人の気づき、意見を参考とし、サービスの向上に努めております。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な食事会、意見交換の場を設け、一人一人の意見を大切に、必要な際には助言を行う。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人一人の得意分野を見つけ、力を発揮してもらい、成功した際の自身や意欲に繋げていく。自分の中で、短期目標を定め、それに向け努力する様にし、自己啓発に努めております。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の面接においては、現在直面している問題点、不安な点等について詳細に伺い、いかにして解決すべきか、御家族、入居者とスタッフが一緒に考えて信頼関係を築いていけるか考えております。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接や家族会等の機会を通じて、御家族の悩みや不安を受け止めて傾聴に努めています。しかる後にスタッフの考えや、これからの方策を提示し、支持して頂けるよう心がけております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、ホームに足を運んで頂き、困っている事、不安な事が何なのか具体化し、地域のケアマネージャーと連絡を取り、必要に応じたサービス利用を考えております。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの面接と合わせ、入居されている方々の交流が持てるようにし、食事を一緒に召し上がっていただいたり、雰囲気を感じてもらう様に努めて、時には入居者本人も朝礼に参加意見を同じ目線で話し合っております。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様と一緒に出かけの際、お弁当を詰めを手伝って頂き、楽しさを倍にして過ごしております。	○	食器洗い、お出かけをした時等荷物を持って頂いたりしております。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた際、昔の様子を聞いて、ケアのヒントにして誕生日、お出かけのお知らせをし、共に過ごせる時間を作っております。	○	家族の面会時、近況を必ずお話し、不安な事、変化があった時随時連絡を入れる様にする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通して、認知症の理解を深めて頂く。あまり面会に来られない場合は、面会に来て頂ける様に手紙、電話等で働きかけております。	○	病気に対しての理解が得られる様、周辺症状等説明している。又、近況をお話する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人を取り巻く人間関係について把握し、電話、FAX等で連絡を取り、繋がりを継続出来る様支援していく。	○	本人の希望があった際は、電話、手紙は自由にかけてたり、出したりされている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士がくつろいで歓談している時は、その雰囲気が保たれる様にスタッフが、見守りをしています。言い争いなどちょっとしたトラブルが発生した際は、即座にスタッフが介入し、大きなトラブルを未然に防ぐ様に努めています。入居者同士のトラブルを解決すべく、傍らのスタッフが誘導しております。	○	他入居者との関わりが難しい方には、職員が仲介に入り、その方が主役になれる場の提供を支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	諸般の事情により、やむなく退去に至った場合も、入居者のニーズにかなった行き先やサービスの提供を行っております。又、御家族と連絡し、その後の経緯も把握する様に努めております。	○	退居後も、本人がその人らしく生活出来る様に必要に応じて情報提供を行っております。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をするのも本人の意思確認し、尊重する様努めている。本人の好きな飲み物を用意する。家族に電話をしたい等一つ一つ対応する様にしております。	○	相手の立場に立った考え方が出来る様心がけております。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接、面会時、折々家族から情報を得ておく。入居者の方々からも昔の話等を聞く。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の時は、同じテーブルにつき、食事の進み具合等気に留める様にする。本人が出来る事判る力を把握しておくよう努める。一人一人に合わせ、好み合った調理、刻み、トロミ、全粥等にしております。	○	日勤、夜勤の申し送りノート、気づきノート、個人記録、業務日誌を活用し把握する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ことあるごと細やかなカンファレンスを行う。面会、家族会を利用し、御家族の意見も伺い、ケアに生かせる様に努めております。	○	一方の視点かではなく、多角的にその人を見て行く様努め、ケースカンファレンスをしていきたい。介護の方法を見失ったとき、とことんスタッフ全員で納得いくまで話し合い、力を出し合っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直し、6ヶ月毎の更新。状況に合わせて、必要の際は、ケアプランの見直しを行っている。本人、家族、職員の三者で話し合う場合もあります。	○	介護計画に繋げる為に、カンファレンスを行い、気づきノート等活用し、スタッフ間の共有に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録については、センター方式D-4を採用し、入居者の言葉やスタッフの観察分析を記入し、ケアプランの作成に活用しています。又、連絡ノートとは別に申し送りノートの中に気づきも記入しノートを置き、必要な情報はくまなくスタッフ間で共有しております。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院から月2回、認知症専門医による往診をして頂き、意見、アドバイスを受けている。系列病院への外来受診、入院等。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	フラダンス、コーラス、ハーモニカの合奏、伝統芸能等多数に及ぶ文化ボランティアグループの協力。又、泉公会堂まで数人で出かけ、太鼓の大演奏会等鑑賞に行き、生活を豊かにすべく努めております。	○	消防署の指導による防災訓練に参加し、入居者の安全をより一層高めていきたいと考えております。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護の利用を検討している事例も有りますが、入居者の自己負担になる事を考慮に入れながら、地域ケアプラザなどには囲碁のお好きな方の為無料で出来る事は参加しております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	開設は、平成19年10月1日より現在まで3回の運営推進委員会も開催出来、今後のより良いサービスに繋がられる様参考の意見を受けて、日々のサービス向上に繋げております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	岡津クリニックより内科の医師が往診に月1回来られ、系列病院より認知症専門医師の往診。湘南台歯科クリニック、生協戸塚、共立第1、第2、済生会病院、横浜市民病院、国際親善、横浜医療センター病院等々利用しております		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	水分チェック表、バイタル表、月1回体重測定を行っております。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	朝礼で、事ある毎管理者は利用者が主人公という事を職員に話しております。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	誕生日会には、本人の希望に合わせた料理を出すことを心がけております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便パターンを把握し、さりげなく支援し、失敗時本人が傷つけない様に周囲に気づかれぬ様にさりげなく配慮をしている。排泄記録をつけております。	○	便秘がちの方には、牛乳、ヨーグルト又は、りんご等は薄く刻み、サラダ等にし摂取して頂いております。排便を促す様にしています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や、希望に合わせて入浴出来る様支援し、シャワー浴は、いつでも可能である。負担にならない程度の入浴時間で自由に入浴して頂いております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、レクレーション後等は、個々の疲れ具合により休憩して頂く。安眠のできない利用者について、本来のリズム作りを支援し医師と相談し薬の処方をして頂いております。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活観を参考にして、それぞれの入居者に合った仕事を分配して頂いております。又、様々な趣味活動の場を提供して生き生きとした生活を送れる様配慮しております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭とは、単なる物でなく入居者と社会を繋ぐ象徴的な物であると認識しています。お金を持って社会との関わりを維持する様にしており、従って可能な限り入居者のお金の所持や使用を支援しております。	○	本人の出来る範囲で、スーパーのレジ等で支払いをして頂いております。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせて、戸外に出掛けられる様に支援している。歩行困難の方は、車椅子や車での外出をし負担のかからない様に支援している。本人の希望で夕方2～3人で出かけ、ビール、美味しい料理を召し上がっておられます。	○	妄想などから郷里に歩いて帰ってくる等おしゃる場合でも、一対一の対応で、外出し安心感、満足感をもって頂く様支援しております。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様の希望をお聞きし、同系列のホームの車を借り、3～4台でカラオケ、大船フラワーセンター、回転寿司、公園等に出掛けて楽しんでおります。又、同系列のホームに出掛け、イベントに参加しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも、自由に電話を掛けて頂き、携帯電話を持っている方もおり、Faxでの通信をし、はがきは常備し、かけない方は代筆して支援しております。	○	長期に御家族からの連絡がない時は、職員の方から御家族に電話、Faxをくださる様をお願いしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室又は、リビングで一緒にお茶を飲んで頂いております。誕生会や小旅行の際は参加して頂き、一緒に楽しんで頂いております。	○	リビングで職員、利用者、家族、皆で楽しいお茶の時を作っております。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が入居者の安全を確保する事なのか、何が入居者を拘束する行為なのか、スタッフ全員が朝礼のみならず、あらゆる機会を利用して勉強と情報の共有化を図っております。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵はかけない。利用者が出かける時は、後から付いて行き、見守り、時には声掛けをし、本人の意思を尊重しております。	○	出かけた希望がある時止める事はせず、自由に出かけて頂き、職員が見守りする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人一人の日々の動きを把握し、連携プレイによって見守りをしている。職員一人一人が、鳥の目虫の目を持って見守る様にしております。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、本人や御家族の承諾を得たうえで刃物類は一括にして事務所に保管しています。その他の者については、入居者の状況に応じて、自由を重んじながら適宜安全を確保しております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の身体状況を把握し、お粥、刻み等を提供し、足の運びの悪い方には、ホーム内でもシルバーカーを使用しております。	○	ヒヤリハットの報告は、朝礼にてスタッフ全員で話合っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを目の付く所に提示。救急車対応時は、同じ職員が同行するのではなく、皆が経験出来る様にしております。	○	朝礼時、緊急の対応の再確認を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方々を招待し、相互理解を深め合い、業者による定期的設備点検と同時に、防災避難訓練の実施。缶詰、水の備蓄。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを面会時、家族会の機会に説明をしております。相互の話し合いの中から、生き活きとした暮らしが営める様に、ホームで取りえる最善策を導き出し実施しております。	○	御家族との話し合い、現状説明等の記録を残すようにする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	お茶、食事、体操、入浴時、あらゆる場面で、顔色や状態を観察し、異変時は、バイタルチェック、時には受信へと繋げ、御家族への連絡、日誌への記録記入、共有しております。	○	排便、水分チェック表の確認をし、水分摂取が少ない時は、ポカリ、紅茶、コーラ等ご自分の好きな飲み物を飲んで頂く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の早見表(目的、用法、用量)を作成している。毎朝、職員が交代で薬の準備をする事により、一人一人の薬の把握が出来ております。	○	処方を変更された時は、クリニック連絡ノートに記入し、共有する様にしている。薬の名称、効能の理解に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表を作成し、一人一人の排便を把握し、体操、散歩を積極的に取り入れ、搾り下ろしたリンゴやヨーグルト、牛乳等も取り入れております。排便が見られない様であれば、マッサージをしたり、飲食物を工夫したりして、自然排便を促しております。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が、口腔ケアの必要性を理解した上で、声掛けのみの人、半介助、全介助の方と一人一人に合ったケアをしています。口腔ケアは専門医の指導を仰いでおります。	○	歯ブラシのチェック、コップの清潔を保っております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は、チェック表を作り、過不足がないかどうかチェックしております。又、栄養に偏りがない様に、栄養士が作成したメニューをベースにして計画しております。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対応を全職員に周知し、保健所からの通達なども開示、ドアノブ、テーブル、椅子等消毒。冬季には加湿器、濡れタオルに希釈したジア塩素酸を含ませて(そのせいか3年インフルエンザにもかかっていない)使用し乾燥を防いでいる。インフルエンザ予防接種を受けております。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台フキン、包丁等毎日除菌(ジア塩素酸)している。食品の買いだめをせず、毎日冷蔵庫チェックをしている。調理器具の取扱い方、取り決めを台所に提示しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口前の空間の道路には、お花が植えてある。花壇を置き、玄関つきあたりには、曇りガラスに野の花の名前の付いた、アート風にしてあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルには、季節の花を飾ったり、共有空間には、日々お出かけした時の写真、入居者様の作品等飾っております。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、長いソファを置き一人で新聞を読んだり、皆さんとソファに座り談笑をしたり、TVを観たりしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物を持ってきております。	○	居室スペースに限りがあるので、本人、家族と話し合い、居心地良く安全を考えた居室作りをしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時、居室の換気をし、トイレの臭いは勿論の事、不快感を起こすような臭いが漂わない様、常に気を付けている。冷暖房温度調整は、常にリモコンを持ち適温になる様気を配っています。	○	必要に応じて、扇風機や消臭スプレー等使用している。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個人の状態に応じ、歩行器、車椅子を使用する様に、工夫している。風呂場入口には、手摺り、玄関には、椅子を置き安全に注意しております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者と一緒に、居室の清掃や整理を行い、物の遺失や見当識の混乱防止に努めております。又、居室のドアには表札を作り、本人の好きな写真や絵を貼って、他の入居者の居室との区別が出来る様にしております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階居室前には、花壇があり季節になると花が咲いています。又、ベランダには、緑の花物を置き、入居者様と一緒に洗濯物の物干しのお手伝いをして頂いております。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が「その人らしく、生活出来る、持てる力を出す事が出来る」その為に、職員は何をすべきかを、いつも第一に考える様朝礼で話し、職員に浸透させています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム野の花
(ユニット名)	グループホーム マーガレット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市戸塚区上矢部町2115-6
記入者名 (管理者)	大形 敬子
記入日	平成 20 年 7 月 16 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざすグループホームである様、スタッフ一同近隣の公園の清掃の参加、クリスマス会には、一人暮らしの高齢者、子供会の子供さんを招き会食会等を行っております。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼にて、入居者一人一人の関わり等、サービスの質の向上にて話合っております。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的に家族会を開き、催し物、誕生日、カラオケ等日中スナックを借り、日々の活動に参加して頂く様アプローチしております。小旅行(江ノ島)	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物、その他の外出の機会に近隣の方々の理解とコミュニケーションを取っております。散歩にはスタッフの犬も同行し、公園のゴミ拾い等を行っております。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加、公園のゴミ拾い、囲碁の交流等地域の活動交流を図っております。又、中学生のボランティア活動体験学習の受け入れ、イベントの際お誘いして交流を計っております。	○ まだ、開所して間もない為もっと地域の催し物等多くに参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々御家族には、介護保険の仕組み、認知症等について理解しやすい様講演等行っております。又横浜市グループホーム連絡会にて、認知症についての発表会等行っております。研修として、他のグループホームでの良い所、悪い所を学びスタッフ一同共有しています。	○	・グループホーム連絡会 ・認知症審査委員 ・キャラバンメイト ・区認知症について等々で、今後地域に貢献したく思っております。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	大変深く理解しております。日々の業務や、サービスを見返す機会としてとらえ朝礼、カンファレンスの議題に取り上げて地道に改善の努力を重ねております。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会を現在2回行っている内、ホーム内の出来事等交流参考意見が出てきております。この事を真摯に受け止め、更なるサービスの質の向上につなげていっております。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会委員会、認知症審査委員、キャラバンメイトの活動で、少しながらも講演等させていただいた中で伝える事で質の向上につなげていっております。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日々高齢者の見守り、支え合えるシステムをスタッフ一同が、事業や制度の理解に努め、御家族にも啓蒙を進めております。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義について徹底して学び、何が虐待につながるか色々な角度から分析し要因を探っています。又虐待防止の定義を廊下に掲示し、全職員がこれを遵守する様にしております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いを行っている。研修に参加した職員へ、朝礼で研修内容を伝えている。 (例：事業主の研修の場所になっています)</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列グループホームの交換研修を行う事により、他の人の気づき、意見を参考とし、サービスの向上に努めております。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的な食事会、意見交換の場を設け、一人一人の意見を大切に、必要な際には助言を行う。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフ一人一人の得意分野を見つけ、力を発揮してもらい、成功した際の自身や意欲に繋げていく。自分の中で、短期目標を定め、それに向け努力する様にし、自己啓発に努めております。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時の面接においては、現在直面している問題点、不安な点等について詳細に伺い、いかにして解決すべきか、御家族、入居者とスタッフが一緒に考えて信頼関係を築いていけるか考えております。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接や家族会等の機会を通じて、御家族の悩みや不安を受け止めて傾聴に努めています。しかる後にスタッフの考えや、これからの方策を提示し、支持して頂けるよう心がけております。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、ホームに足を運んで頂き、困っている事、不安な事が何なのか具体化し、地域のケアマネージャーと連絡を取り、必要に応じたサービス利用を考えております。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの面接と合わせ、入居されている方々の交流が持てるようにし、食事を一緒に召し上がっていただいたり、雰囲気を感じてもらう様に努めて、時には入居者本人も朝礼に参加意見を同じ目線で話し合っております。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様と一緒に出かけの際、お弁当を詰めを手伝って頂き、楽しさを倍にして過ごしております。	○	食器洗い、お出かけをした時等荷物を持って頂いたりしております。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた際、昔の様子を聞いて、ケアのヒントにして誕生日、お出かけのお知らせをし、共に過ごせる時間を作っております。	○	家族の面会時、近況を必ずお話し、不安な事、変化があった時随時連絡を入れる様にする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通して、認知症の理解を深めて頂く。あまり面会に来られない場合は、面会に来て頂ける様に手紙、電話等で働きかけております。	○	病気に対しての理解が得られる様、周辺症状等説明している。又、近況をお話する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人を取り巻く人間関係について把握し、電話、FAX等で連絡を取り、繋がりを継続出来る様支援していく。	○	本人の希望があった際は、電話、手紙は自由にかけてたり、出したりされている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士がくつろいで歓談している時は、その雰囲気が保たれる様にスタッフが、見守りをしています。言い争いなどちょっとしたトラブルが発生した際は、即座にスタッフが介入し、大きなトラブルを未然に防ぐ様に努めています。入居者同士のトラブルを解決すべく、傍らのスタッフが誘導しております。	○	他入居者との関わりが難し方には、職員が仲介に入り、その方が主役になれる場の提供を支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	諸般の事情により、やむなく退去に至った場合も、入居者のニーズにかなった行き先やサービスの提供を行っております。又、御家族と連絡し、その後の経緯も把握する様に努めております。	○	退居後も、本人がその人らしく生活出来る様に必要に応じて情報提供を行っております。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をするのも本人の意思確認し、尊重する様努めている。本人の好きな飲み物を用意する。家族に電話をしたい等一つ一つ対応する様にしております。	○	相手の立場に立った考え方が出来る様心がけております。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接、面会時、折々家族から情報を得ておく。入居者の方々からも昔の話等を聞く。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の時は、同じテーブルにつき、食事の進み具合等気に留める様にする。本人が出来る事判る力を把握しておくよう努める。一人一人に合わせ、好み合った調理、刻み、トロミ、全粥等にしております。	○	日勤、夜勤の申し送りノート、気づきノート、個人記録、業務日誌を活用し把握する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ことあるごと細やかなカンファレンスを行う。面会、家族会を利用し、御家族の意見も伺い、ケアに生かせる様に努めております。	○	一方の視点かではなく、多角的にその人を見て行く様努め、ケースカンファレンスをしていきたい。介護の方法を見失ったとき、とことんスタッフ全員で納得いくまで話し合い、力を出し合っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直し、6ヶ月毎の更新。状況に合わせて、必要の際は、ケアプランの見直しを行っている。本人、家族、職員の三者で話し合う場合もあります。	○	介護計画に繋げる為に、カンファレンスを行い、気づきノート等活用し、スタッフ間の共有に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録については、センター方式D-4を採用し、入居者の言葉やスタッフの観察分析を記入し、ケアプランの作成に活用しています。又、連絡ノートとは別に申し送りノートの中に気づきも記入しノートを置き、必要な情報はくまなくスタッフ間で共有しております。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院から月2回、認知症専門医による往診をして頂き、意見、アドバイスを受けている。系列病院への外来受診、入院等。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	フラダンス、コーラス、ハーモニカの合奏、伝統芸能等多数に及ぶ文化ボランティアグループの協力。又、泉公会堂まで数人で出かけ、太鼓の大演奏会等鑑賞に行き、生活を豊かにすべく努めております。	○	消防署の指導による防災訓練に参加し、入居者の安全をより一層高めていきたいと考えております。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護の利用を検討している事例も有りますが、入居者の自己負担になる事を考慮に入れながら、地域ケアプラザなどには囲碁のお好きな方の為無料で出来る事は参加しております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	開設は、平成19年10月1日より現在まで3回の運営推進委員会も開催出来、今後のより良いサービスに繋がられる様参考の意見を受けて、日々のサービス向上に繋げております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	岡津クリニックより内科の医師が往診に月1回来られ、系列病院より認知症専門医師の往診。湘南台歯科クリニック、生協戸塚、共立第1、第2、済生会病院、横浜市民病院、国際親善、横浜医療センター病院等々利用しております		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	水分チェック表、バイタル表、月1回体重測定を行っております。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	朝礼で、事ある毎管理者は利用者が主人公という事を職員に話しております。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	誕生日会には、本人の希望に合わせた料理を出すことを心がけております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便パターンを把握し、さりげなく支援し、失敗時本人が傷つけない様に周囲に気づかれない様にさりげなく配慮をしている。排泄記録をつけております。	○	便秘がちの方には、牛乳、ヨーグルト又は、りんご等は薄く刻み、サラダ等にし摂取して頂いております。排便を促す様にしています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や、希望に合わせて入浴出来る様支援し、シャワー浴は、いつでも可能である。負担にならない程度の入浴時間で自由に入浴して頂いております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、レクレーション後等は、個々の疲れ具合により休憩して頂く。安眠のできない利用者について、本来のリズム作りを支援し医師と相談し薬の処方をして頂いております。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活観を参考にして、それぞれの入居者に合った仕事を分配して頂いております。又、様々な趣味活動の場を提供して生き生きとした生活を送れる様配慮しております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭とは、単なる物でなく入居者と社会を繋ぐ象徴的な物であると認識しています。お金を持って社会との関わりを維持する様にしており、従って可能な限り入居者のお金の所持や使用を支援しております。	○	本人の出来る範囲で、スーパーのレジ等で支払いをして頂いております。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に合わせて、戸外に出掛けられる様に支援している。歩行困難の方は、車椅子や車での外出をし負担のかからない様に支援している。本人の希望で夕方2～3人で出かけ、ビール、美味しい料理を召し上がっておられます。	○	妄想などから郷里に歩いて帰ってくる等おしゃる場合でも、一対一の対応で、外出し安心感、満足感をもって頂く様支援しております。本人の希望で、喫茶店での一対一での対応をしております。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様の希望をお聞きし、同系列のホームの車を借り、3～4台でカラオケ、大船フラワーセンター、回転寿司、公園等に出掛けて楽しんでおります。又、同系列のホームに出掛け、イベントに参加しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも、自由に電話を掛けて頂き、携帯電話を持っている方もおり、Faxでの通信をし、はがきは常備し、かけない方は代筆して支援しております。	○	長期に御家族からの連絡がない時は、職員の方から御家族に電話、Faxをくださる様をお願いしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室又は、リビングで一緒にお茶を飲んで頂いております。誕生会や小旅行の際は参加して頂き、一緒に楽しんで頂いております。	○	リビングで職員、利用者、家族、皆で楽しいお茶の時を作っております。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が入居者の安全を確保する事なのか、何が入居者を拘束する行為なのか、スタッフ全員が朝礼のみならず、あらゆる機会を利用して勉強と情報の共有化を図っております。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵はかけない。利用者が出かける時は、後から付いて行き、見守り、時には声掛けをし、本人の意思を尊重しております。	○	出かけた希望がある時止める事はせず、自由に出かけて頂き、職員が見守りする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人一人の日々の動きを把握し、連携プレイによって見守りをしている。職員一人一人が、鳥の目虫の目を持って見守る様にしております。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、本人や御家族の承諾を得たうえで刃物類は一括にして事務所に保管しています。その他の者については、入居者の状況に応じて、自由を重んじながら適且安全を確保しております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の身体状況を把握し、お粥、刻み等を提供し、足の運びの悪い方には、ホーム内でもシルバーカーを使用しております。	○	ヒヤリハットの報告は、朝礼にてスタッフ全員で話合っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを目の付く所に提示。救急車対応時は、同じ職員が同行するのではなく、皆が経験出来る様にしております。	○	朝礼時、緊急の対応の再確認を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方々を招待し、相互理解を深め合い、業者による定期的設備点検と同時に、防災避難訓練の実施。缶詰、水の備蓄。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを面会時、家族会の機会に説明をしております。相互の話し合いの中から、生き活きとした暮らしが営める様に、ホームで取りえる最善策を導き出し実施しております。	○	御家族との話し合い、現状説明等の記録を残すようにする。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	お茶、食事、体操、入浴時、あらゆる場面で、顔色や状態を観察し、異変時は、バイタルチェック、時には受信へと繋げ、御家族への連絡、日誌への記録記入、共有しております。	○	排便、水分チェック表の確認をし、水分摂取が少ない時は、ポカリ、紅茶、コーラ等ご自分の好きな飲み物を飲んで頂く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の早見表(目的、用法、用量)を作成している。毎朝、職員が交代で薬の準備をする事により、一人一人の薬の把握が出来ております。	○	処方を変更された時は、クリニック連絡ノートに記入し、共有する様にしている。薬の名称、効能の理解に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表を作成し、一人一人の排便を把握し、体操、散歩を積極的に取り入れ、摩り下ろしたリンゴやヨーグルト、牛乳等も取り入れております。排便が見られない様であれば、マッサージをしたり、飲食物を工夫したりして、自然排便を促しております。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が、口腔ケアの必要性を理解した上で、声掛けのみの人、半介助、全介助の方と一人一人に合ったケアをしています。口腔ケアは専門医の指導を仰いでおります。	○	歯ブラシのチェック、コップの清潔を保っております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は、チェック表を作り、過不足がないかどうかチェックしております。又、栄養に偏りが無い様に、栄養士が作成したメニューをベースにして計画しております。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対応を全職員に周知し、保健所からの通達なども開示、ドアノブ、テーブル、椅子等消毒。冬季には加湿器、濡れタオルに希釈したジア塩素酸を含ませて(そのせいか3年インフルエンザにもかかっていない)使用し乾燥を防いでいる。インフルエンザ予防接種を受けております。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台フキン、包丁等毎日除菌(ジア塩素酸)している。食品の買いだめをせず、毎日冷蔵庫チェックをしている。調理器具の取扱い方、取り決めを台所に提示しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	テラス、ホールの空間に、すだれ等利用して、アート風にしてあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルには、季節の花を飾ったり、共有空間には、日々お出かけした時の写真、入居者様の作品等飾ってあります。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、長いソファを置き一人で新聞を読んだり、皆さんとソファに座り談笑をしたり、TVを観たりしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫 をしている	入居時馴染みの物を持ってきております。	○	居室スペースに限りがあるので、本人、家族と話し合い、居心地良く安全を考えた居室作りをしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	掃除の時、居室の換気をし、トイレの臭いは勿論の事、不快 感を起こすような臭いが漂わない様、常に気を付けている。 冷暖房温度調整は、常にリモコンを持ち適温になる様気を 配っています。	○	必要に応じて、扇風機や消臭スプレー等使用している。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	利用者の個人の状態に応じ、歩行器、車椅子を使用する様 に、工夫している。風呂場入口には、手摺り、玄関には、椅 子を置き安全に注意しております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	入居者と一緒に、居室の清掃や整理を行い、物の遺失や見 当識の混乱防止に努めております。又、居室のドアには表札 を作り、本人の好きな写真や絵を貼って、他の入居者の居室 との区別が出来る様にしております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	二階ベランダには、花壇があり、犬の置物、緑の植物等を置 いています。物干しでは、入居者様にお手伝いをして頂いて、 洗濯物を干しております		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が「その人らしく、生活出来る、持てる力を出す事が出来る」その為に、職員は何をすべきかを、いつも第一に考える様朝礼で話し、職員に浸透させています。